

横川一ノ沢 (仮称)  
(作図: )

赤倉沢 (作図: )  
大沢

ある。  
入口は平凡であったが、少し進むとV字に切れこみ、滝のありそうな気配。滝が出てきた。5m程度のもものが3つ。いずれも直登。ホールド豊富で今日が沢降り2回目の門部さんにとっても、手慣れた滝登りとなっただろう。こんな調子ならこの先も期待できそうである。

伐採がされて明るくなった部分を過ぎると、またV字に切れこんだ沢筋となる。小滝がいくつも出てくるので登るにあきない。稜線直下まで流れが続いて、11時40分尾根上に出る。(記)

出合(9:30)——尾根(11:40)

大沢 1981年7月12日  
赤倉沢(下降) L

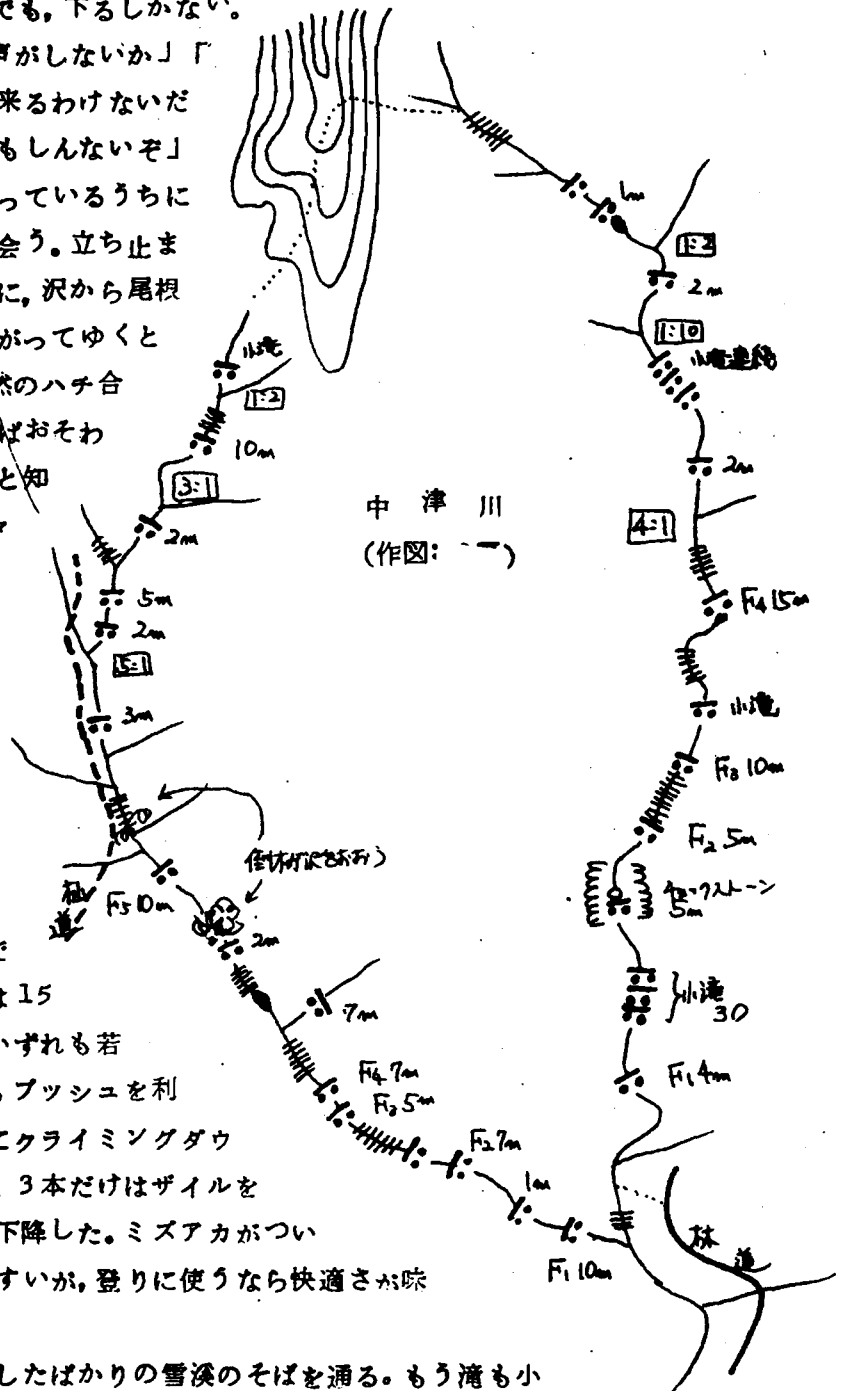
時間も遅いからぐずぐずできない。さっそく赤倉沢の下降開始だ。尾根の西斜面はブッシュがうすく、通過は比較的楽である。10分で沢の形態をとりはじめ、水流が出てくる。この沢も花岩層のようだ。これなら期待がもてる。クマのフンが出てきた。まだ新しい。足跡や草の折れ具合からして今しがた通過したばかりのようだ。何だかいや

な感じとなる。でも、下るしかない。

出発。「何か話声がしないか」「こんな所に人が来るわけないだろう」「クマかもしんないぞ」こんなことを言っているうちに2頭のクマに出会う。立ち止まった我々を尻目に、沢から尾根へゆうゆうとあがってゆくところだった。突然のハチ合わせをしなければおそわれることはないを知っているても、クマというといい気持はしない。

「クマが捲いていったんだから滝があるぞ。」と言っていたら、やっぱり滝が出てきた。しかも連続で出てくる。落差は15m位のが最高。いずれも若干ナメ状である。プッシュを利用したり、慎重にクライミングダウンしたりするが、3本だけはザイルをとり出して懸垂下降した。ミスアカがついていてすべりやすいが、登りに使うなら快適さが味わえそうだ。

今しがた崩壊したばかりの雪溪のそばを通る。もう滝も小型のものばかりとなり、前方の傾斜もゆるやかになってきたようだ。時間が気にな



ってきた。休みなしでどんどん下る。5m程の滝がぼつんぼつんという感じとなり、それもなくなる。いよいよ中津川林道も間近だ。第16号橋到着17時55分。

(記。

下降開始(15:15)——第16号橋(17:55)

1981年8月9日

中津川

L

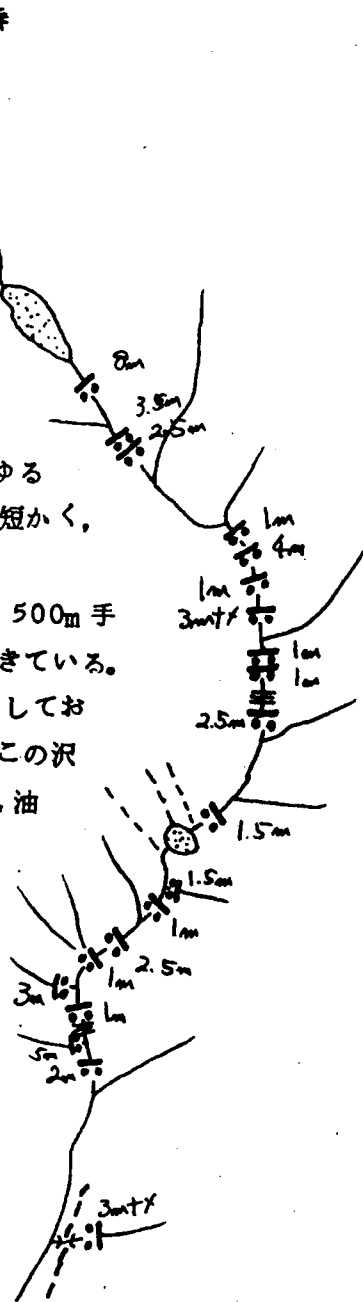
者

茂庭の沢の中では、鳥川とこの中津川が大きい。下流および中流部は営林署の林道がのび、ゆるやかな流れであるが、上流部は等高線の間隔が短かく、滝を期待しての遡行である。

6時45分福島発。8時10分に林道終点より500m手前に車を置く。地図にあるよりは林道は長くできている。

8時28分入溪。水は冷たい。木がうっそうとしており、滝の「におい」がする。間もなくF1 4m。この沢は水アカが多く、コケのついている所もあって、油断できない。小滝を過ぎ、ゴルジュが出てくる。意外に険悪だとうれしがらせる。続いて、F2 5m、F3 10mと、ナメをはさんで次々と出現する。茂庭の沢は、当たりはずれの差が大きい。この沢は兎事当りのようだ。F4 15m。今回で最も大きい滝だが、むずかしくない。小滝の連続を通過し、二俣に出た。我々は尾根一本左の沢を下降する予定にしていたので、左俣に入る。もう水量も少く、滝もかからないので、9時57分、遡行を打ち切り尾根に登る。

尾根10時10分着。10分も下ると沢に



柳沢(作図)